

中期標準化戦略(概要と目的)

中期標準化戦略(概要と目的)		専門委員会・AG名	番号計画専門委員会	1/3												
企画戦略委員	辻河 亨(NTT)		登録委員数	6社 15名												
正副委員長 リーダー・サブ	委員長：柱 匠（NTT）、副委員長：井上 統之（KDDI）		図解													
活動の目的・意義	IoT/M2MサービスやOTTサービスの進展とグローバル化ならびにIPマイグレーションの進展による番号計画上の対応（新規・改訂勧告の策定）を、関連する分野の専門組織と連携しながら進め、今後のサービスの発展に向け有限な番号リソースが有効に活用されることを目的とする。		ITU-T SG2 (電気通信番号の標準化) 国際勧告作成・改訂 ● IoT番号勧告 (E.IoT-NNAI) ● 番号計画 (E.164勧告) ● 番号ポータビリティ(E.164Sup.) ● IMSIの割当・管理 (E.212勧告) ● 番号誤用 (E.156勧告) ● 国際発番号 (E.157勧告) ● IoT識別子 (E.IoT-.NNAI) ● IINの割当・管理 (E.118勧告) ● OTT番号管理 CEPT_ECC_NaN (欧州主管庁技術検討) ● 発番号偽装対策 ● 番号ポータビリティ ● eCall番号 ● クラウド番号 ● OTT番号 ● 将来番号 ETSI_NTECH (欧州組織/世界レベル) ● STIR/SHAKENの技術課題検証 ● オールIP化での番号ポータビリティ FCC, NANPA, iconectiv (米国主管庁・規制機関) ● STIR/SHAKEN導入 ● NNP(全国番号ポータビリティ) IETF (IP技術標準化) ● 発番号偽装対策 (STIR) 3GPP (無線通信標準化) ● M2M番号のユースケース ● IMSIの領域外使用 GSMA (モバイルの商用検討) ● eSIM使用方法 ● OTAによるIMSI書き換え ● IINの拡張使用 会合参加 会合参加 動向注視 動向注視 リエゾン リエゾン <tr><td>活動する上での課題</td><td colspan="2">ITU-T SG2での課題取り組みへの対応を基本とする。 具体的には、IoT/M2M用番号計画の新規勧告策定、IMSIの割当管理の勧告E.212改訂、IIN(Issuer Identifier Number)割当の勧告E.118改訂や、番号使用適正化対策(OTTの番号誤用、発番号詐称等)の新規勧告策定、AIを用いた災害マネジメントFGのアウトプット、IP網化に向けたインターネット・ENUM、番号ポータビリティ・キャリアスイッチング等の勧告化が課題である。</td></tr> <tr><td>関連のSDGsゴール</td><td colspan="2"></td></tr> <tr><td>標準化方針</td><td colspan="2">・国内動向に関連する番号関連標準の作成、修正等の必要性については、ITU-T SG2に加え、関連する標準化団体、欧州及び米国の番号主管庁・規制機関等の動向を見極め、判断を行う。 ・上記判断により、必要に応じてTTCドキュメント作成・改訂に着手する。</td></tr> <tr><td>国内外標準化団体動向</td><td colspan="2">・ITU-T SG2では、IoT/M2MやOTTサービスでの番号管理、移動体識別のIMSI及びIIN、番号使用の適正化(OTTの番号誤用、発番号詐称等)、番号ポータビリティ・キャリアスイッチング等の課題に関する勧告化を検討中。 ・ETSI NTECHでは、網のIP化での番号ポータビリティ方式、発番号詐称対策等の課題検討が幅広く実施され、番号方式のノウハウが蓄積されてきた。 ・IETFでは、発番号偽装対策方法を検討するSTIR（Secure Telephone Identity Revisited）WGにて、技術的な議論が継続されている。 ・欧州郵便電気通信主管庁会議(CEPT)配下のECC-NaN（Numbering and Networks）では、番号の技術的検討を実施。TTCとの合同セミナーを2019年度に実施するなど、相互理解を深める活動を行っている。 ・米国の番号主管庁・規制機関であるFCC, NANPA, iconectivでは、発番号偽装対策のSTIR/SHAKEN導入、NNP(全国番号ポータビリティ)、番号逼迫対策などの課題が幅広く検討されている。</td></tr>		活動する上での課題	ITU-T SG2での課題取り組みへの対応を基本とする。 具体的には、IoT/M2M用番号計画の新規勧告策定、IMSIの割当管理の勧告E.212改訂、IIN(Issuer Identifier Number)割当の勧告E.118改訂や、番号使用適正化対策(OTTの番号誤用、発番号詐称等)の新規勧告策定、AIを用いた災害マネジメントFGのアウトプット、IP網化に向けたインターネット・ENUM、番号ポータビリティ・キャリアスイッチング等の勧告化が課題である。		関連のSDGsゴール	  		標準化方針	・国内動向に関連する番号関連標準の作成、修正等の必要性については、ITU-T SG2に加え、関連する標準化団体、欧州及び米国の番号主管庁・規制機関等の動向を見極め、判断を行う。 ・上記判断により、必要に応じてTTCドキュメント作成・改訂に着手する。		国内外標準化団体動向	・ITU-T SG2では、IoT/M2MやOTTサービスでの番号管理、移動体識別のIMSI及びIIN、番号使用の適正化(OTTの番号誤用、発番号詐称等)、番号ポータビリティ・キャリアスイッチング等の課題に関する勧告化を検討中。 ・ETSI NTECHでは、網のIP化での番号ポータビリティ方式、発番号詐称対策等の課題検討が幅広く実施され、番号方式のノウハウが蓄積されてきた。 ・IETFでは、発番号偽装対策方法を検討するSTIR（Secure Telephone Identity Revisited）WGにて、技術的な議論が継続されている。 ・欧州郵便電気通信主管庁会議(CEPT)配下のECC-NaN（Numbering and Networks）では、番号の技術的検討を実施。TTCとの合同セミナーを2019年度に実施するなど、相互理解を深める活動を行っている。 ・米国の番号主管庁・規制機関であるFCC, NANPA, iconectivでは、発番号偽装対策のSTIR/SHAKEN導入、NNP(全国番号ポータビリティ)、番号逼迫対策などの課題が幅広く検討されている。	
活動する上での課題	ITU-T SG2での課題取り組みへの対応を基本とする。 具体的には、IoT/M2M用番号計画の新規勧告策定、IMSIの割当管理の勧告E.212改訂、IIN(Issuer Identifier Number)割当の勧告E.118改訂や、番号使用適正化対策(OTTの番号誤用、発番号詐称等)の新規勧告策定、AIを用いた災害マネジメントFGのアウトプット、IP網化に向けたインターネット・ENUM、番号ポータビリティ・キャリアスイッチング等の勧告化が課題である。															
関連のSDGsゴール	  															
標準化方針	・国内動向に関連する番号関連標準の作成、修正等の必要性については、ITU-T SG2に加え、関連する標準化団体、欧州及び米国の番号主管庁・規制機関等の動向を見極め、判断を行う。 ・上記判断により、必要に応じてTTCドキュメント作成・改訂に着手する。															
国内外標準化団体動向	・ITU-T SG2では、IoT/M2MやOTTサービスでの番号管理、移動体識別のIMSI及びIIN、番号使用の適正化(OTTの番号誤用、発番号詐称等)、番号ポータビリティ・キャリアスイッチング等の課題に関する勧告化を検討中。 ・ETSI NTECHでは、網のIP化での番号ポータビリティ方式、発番号詐称対策等の課題検討が幅広く実施され、番号方式のノウハウが蓄積されてきた。 ・IETFでは、発番号偽装対策方法を検討するSTIR（Secure Telephone Identity Revisited）WGにて、技術的な議論が継続されている。 ・欧州郵便電気通信主管庁会議(CEPT)配下のECC-NaN（Numbering and Networks）では、番号の技術的検討を実施。TTCとの合同セミナーを2019年度に実施するなど、相互理解を深める活動を行っている。 ・米国の番号主管庁・規制機関であるFCC, NANPA, iconectivでは、発番号偽装対策のSTIR/SHAKEN導入、NNP(全国番号ポータビリティ)、番号逼迫対策などの課題が幅広く検討されている。															

重点取り組み	1. ITU-T SG2での検討課題（IoT/M2M用の番号計画に関する新規勧告の策定、IMSIの割当管理に関する勧告E.212改訂、IIN(Issuer Identifier Number)の割当に関するE.118勧告改訂、番号ポータビリティ・キャリアスイッチングに関する勧告の改訂等）に対し、会合及び関連するラポータ会合に参加し、動向を注視するとともに必要に応じてアップストリーム/ダウンストリーム活動を実施。特に、番号ポータビリティ方式に関する寄書提案等に関しては積極的にアップストリーム活動を実施。 2. 国内での番号方式に関する普及活動として電気通信番号セミナー開催、TTCLレポート・ITUジャーナル等への投稿を実施予定。また、欧州との相互理解を深めるために、欧州ECC-NaNとの交流を継続し、テクニカルレポート(ECCLレポートの翻訳)の作成実施。			
主な活動項目	概況指標	2021年度目標（当初計画時）	2021年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件	2件	
	外部会合への 参加・連携状況	- ITU-T SG2のQ1ラポータ会合(3月)、プレナリ会合(5-6月) 後の会合及び関連するラポータ会合(時期未定)への参加 - ECC-NaN全体会合(5月、10月)への参加 - 米国番号規制組織(iconectiv, NANPA等)との意見交換	- SG2のQ1ラポータ会合参加(3月) - SG2プレナリ会合参加(5-6月) - SG2のQ1アドホック参加(7月,8月) - SG2のQ1ラポータ会合参加(9月) - SG2プレナリ会合参加(11月) - ECC-NaN全体会合(5月、11月)への参加 - ECC-NaN2会合(5月、11月)への参加 ※米国番号規制組織との意見交換は1月に実施予定	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 ※実施候補：ECCLレポートの翻訳（候補：番号への信頼）	0件/0件/0件 ※ECCLレポートの翻訳（候補：番号への信頼）は、完成を待って次年度に作成予定。	
③ ダウンストリーム	数	0件	0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー、記事投稿、講演会	番号政策・将来番号方式等に関するセミナーの企画によるプロモーションの実施(10月目途)	※セミナーを1月に実施予定	
		TTCLレポート、ITUジャーナル等への投稿による普及活動を予定	TTCLレポート(10月号、1月号)、ITUジャーナル(6月号、10月号)、NTT技術ジャーナル(11月号)、NTT Technical Review(1月号)への投稿による普及活動を実施	

新テーマ及び重点取り組み	1. ITU-T SG2での検討課題（IoT/M2M用の番号計画に関する新規勧告の策定、IMSIの割当管理に関する勧告E.212改訂、IIN(Issuer Identifier Number)の割当に関するE.118勧告改訂、OTT番号の管理、番号ポータビリティ・キャリアスイッチングに関する勧告の改訂等）に対し、会合及び関連するラポータ会合に参加し、動向を注視するとともに必要に応じてアップストリーム/ダウンストリーム活動を実施。特に、番号ポータビリティ、OTT番号に関する寄書提案等に関しては積極的にアップストリーム活動を実施。 2. 国内での番号方式に関する普及活動として、電気通信番号セミナー開催(23年1月開催予定)、TTCLレポート・ITUジャーナル等への投稿を実施。また、欧州との相互理解を深めるために、欧州ECC-NaNとの交流を継続しテクニカルレポート(ECCLレポートの翻訳)の作成実施。			
関連する専門委員会とその内容	・ 国内標準化や番号政策検討の状況に応じて、必要に応じ適宜連携（信号制御専門委員会、IoTエリアネットワーク専門委員会 等）			
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2 件		
	外部会合への参加・連携状況	・ SG2会合(5月) 参加 ・ SG2会合(2023年2月または3月)参加への準備 ・ ECC-NaN全体会合(5月、10月)参加 ・ 米国番号規制組織(iconectiv, NANPA 等)との意見交換		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 ※実施候補：ECCLレポートの翻訳（候補：番号への信頼）		
③ ダウンストリーム	数	0件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	番号政策・将来番号方式等に関するセミナーの企画によるプロモーションの実施(2023年1月予定)		
	記事投稿、講演会	TTCLレポート、ITUジャーナル等への投稿による普及活動を実施		